令和 3 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
農産・蚕糸部門

消費者ニーズに応える水稲多品種栽培と 6 次産業化の取組

- 氏名又は名称 農事組合法人仙台イーストカンントリー（代表 佐々木 均）
- 所在地 宮城県仙台市
- 出品財 経営（水稲、大豆、飼料米ほか）

○受賞理由

・地域の概要

仙台市は、宮城県中部に位置する。当法人は仙台市中心部から南東の沿岸部に位置しており、太平洋側気候の傾向をもつ。そのため、気候は比較的温暖であるが、夏季にはオホーツク海高気圧から噴き出す冷たく湿った東寄りの風（やませ）により、農作物に被害を及ぼすこともある。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

仙台イーストカンントリーは東日本大震災により経営面積の 3 分の 2 が浸水し、農業用機械・施設などの大半を失ったが、そのわずか 2 カ月半後には、浸水を免れた 18ha の水田で田植えを行い経営再開した。その後、仙台市の「農と食のフロンティア推進特区」の第 1 号の特区指定を受け、収益性の高いモデル的な経営体として復興を成し遂げ、現在は約 80ha で稲作や転作を行っている。

・受賞者の特色

(1) 高品質な米の多品種栽培と低コスト化・省力化に向けた取組

消費者のニーズに応えるため、10 品種以上の多品種を作付けし、計画的な収穫作業と適期刈取による品質向上に繋げている。直近 3 か年の平均単収も、水稲の移植 544kg/10a、直播 468kg/10a、大豆 164kg/10a と、いずれも県平均を上回る。

また、生産コスト低減や労働力分散を図るため、鉄コーティング種子による直播栽培や育苗箱全量施肥、水位センサーによる遠隔水田の管理等に取り組んでいる。

(2) 6 次産業化への取組

加工・販売部門として農家レストランと農産加工処理施設を設立し、地域で長年培われてきた技法による無添加味噌の製造や、米の多品種栽培の特徴を活かしたメニュー提供等、6 次産業化に取り組むことで、地域の復興を加速させている。また、市内の飲食店やホテル、地元スーパーでのおにぎりや惣菜の委託販売も行っている。

(3) 女性の活躍

震災で職を失った女性の雇用を創出したいとの思いから、平成 25 年に新設した農産加工処理施設と農家レストランで地域の女性を積極的に雇用している。これらの施設では女性が働きやすい環境を整備し、シフト制の導入等、子育て世代にも働きやすい配慮がなされており、加工・販売部門設立後、1 人の退職者もない。

・普及性と今後の発展方向

東日本大震災後、地域においていち早く営農を再開し、周囲の農業者を勇気づけ復興を牽引してきた。今後も米の多品種栽培、神屋敷天然醸造味噌、農家レストランの 3 つの取組により、50 年後の未来も地域農業を支えていく組合を目指す。

令和3年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

最高品質の追求に「創意」と「努力」を紡ぎ続けた100年、そして未来へ

○氏名又は名称 きたみらい玉葱振興会（代表 加藤 英樹）

○所在地 北海道北見市

○出品財 経営（玉ねぎ）

○受賞理由

・地域の概要

北見市は、北海道東部に位置し、夏期は30℃を越す真夏日となる一方、冬期はマイナス20℃前後まで冷え込む。1日の中での寒暖差も大きい内陸性気候であり、降水量については年間800mm程度と、全国的に見ても少ないことが特徴。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成15年に8つのJAが合併し、JAきたみらいが誕生したことに伴い、各農協単位で存在していた玉葱振興会が結集し、きたみらい玉葱振興会が誕生。生産管理を徹底し品質の高位平準化を図り、全国最大の玉ねぎ産地を形成、単位当たり収量・生産者の農業所得ともに全国平均に比べて高水準を確保している。

・受賞者の特色

（1）生産管理・高位平準化への取組

「質と量」の向上を目指し、根切り技術や定置式タッパーの開発などの技術向上により、単収や生産性を大きく向上させてきた。令和2年に設立された「きたみらいスマート農業推進協議会」に多数の振興会員が参加し、自動操舵トラクターを中心としたスマート農業の導入にも取り組んでいる。

また、過去、玉ねぎ価格の乱高下に苦慮するなか、輸入抑制のための加工業務用出荷を強化し、生食の市場出回り量をコントロールすることで、需要に応じた出荷体制を構築し安定的な市場の形成と経営の安定化を実現している。

（2）振興会青年部との連携

会員の平均年齢は51歳で各地区には青年部が存在。栽培方法の試験や肥料・農薬の効果確認試験を公設の農業試験場等と連携して実施。試験結果や技術情報は振興会にフィードバックされ、振興会全体の栽培技術水準の向上と品質の高位平準化に寄与している。

・普及性と今後の発展方向

産地の未来を見据えた時に必要となるのは、生食と加工、そして輸出を加えたトータルでの安定的な所得確保であるとの考えの下、振興会は100年前から受け継ぐ産地としての責務をこれからも果たしていきたいと考えている。

令和3年度天皇杯受賞者受賞理由概要
畜産部門

長命連産の優れた繁殖性の長期継続で高収益和牛経営を実現

○氏名又は名称 森岡 良輔・森岡 恵理香

○所在地 鹿児島県曾於市

○出品財 経営（肉用牛繁殖）

○受賞理由

・地域の概要

曾於市は、鹿児島県の東部を形成する大隅半島の北部に位置し、農業産出額481億円のうち83%を畜産が占め、畜種別では肉用牛が第1位で子取り用雌牛頭数は県の約1割を占める畜産の盛んな地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

介護福祉士であった森岡良輔氏は平成19年に経営を受け継ぎ、栄養士であった妻の恵理香氏は平成27年に経営参画し、共に両親の下で技術の研鑽に努め、自家産牛による繁殖牛の更新と増頭で堅実に規模拡大を図ってきた。

・受賞者の特色

(1) 優れた繁殖経営の長期継続

長期にわたり、分娩間隔は12ヶ月未満、子牛生産率は90%以上、平均産次は6産以上と長命連産の優れた繁殖成績を継続して達成している。

(2) 低い子牛生産費用と高い所得率の実現

自家産牛での繁殖牛の更新と増頭による借入金の少ない「健全な経営」と優れた繁殖成績による子牛生産費用の低減化と所得率の高い経営を行っている。

(3) 科学的分析結果に基づく飼養管理の改善と粗飼料自給率の向上

きめ細やかな繁殖牛及び子牛の管理を行うとともに、代謝プロファイルテストを実施し、更なる繁殖成績と子牛の生産性向上を図っている。

また、自給飼料の増産に努め、繁殖牛への粗飼料自給率100%を達成している。

(4) 女性の活躍

森岡恵理香氏は、経営参画後、子牛育成を担当するとともに繁殖データや各種帳簿管理など経営の中核を担い、母のゆき子氏も指導農業士として活躍している。

・普及性と今後の発展方向

森岡良輔・森岡恵理香夫妻の繁殖技術や経営内容は、地域繁殖経営のベンチマークとなっており、諸活動を通じて普及に大きく貢献している。今後は、ICT技術の導入なども検討しており、堅実な規模拡大を図っている。

令和3年度天皇杯受賞者受賞理由概要
林産部門

高品質な紀州無垢材の持続的な一貫供給体制を築き上げた100年企業

○氏名又は名称 山長林業株式会社・株式会社山長商店（代表 榎本 長治）

○所在地 和歌山県田辺市

○出品財 経営（林業経営）

○受賞理由

・地域の概要

田辺市は、和歌山県の南部に位置し、平野が少なく海岸部からすぐ山岳地帯へと移行しており、森林面積が約9割を占めている。良質材の産出地として発展しており、現在では、市の人工林は県全体の約3割を占め、県林業の中心地となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

江戸～大正時代にかけて木炭問屋として林業を営むとともに、明治中期より積極的にスギ・ヒノキの造林に取り組み、戦後は大規模な拡大造林を行うとともに製材業に着手した。平成に入ると、木造建築工法の変化に即してプレカット工場を新設し、良質な紀州無垢材の生産を行う従業員100名規模の経営体に成長を遂げた。森づくりから家づくりまでを一貫通貫で見据えた高品質なプレカット無垢材の生産と工務店への販売を繋ぐことで、収益の最大化による好循環な林業経営を行っている。

・受賞者の特色

（1）集約化した広大な山林の適切な管理と木材生産、技術革新への取組

約6千haの所有山林を核として周辺の小規模な森林所有者との共同による森林経営計画の樹立を推進することで、地域の山林を集約管理している。その面積は所有山林の倍にあたる12千haを超えており、長年積み重ねてきた育林技術を用いて、通直完満な良質材を地域として生産する体制を構築している。また、早くから高性能林業機械の導入を進めており、特に代表の榎本氏は「架線集材の低コスト化・省力化技術検討会」を立ち上げ、集材の無線化や自動化にも繋がる油圧式集材機の開発に取り組むなど架線集材の発展に貢献している。

（2）高品質紀州ブランド無垢材の生産と流通（森づくりから家づくりまでの一貫化）

無背割りの高温蒸気乾燥技術の導入によりJAS規格の柱材や横架材を生産し、厳しい自社基準を通過した寸法安定性と品質性能を持つ高品質のプレカット無垢材製品を首都圏の工務店に直接供給することで建築用材の高付加価値化に成功した。また、令和3年には小曲がり材や地域課題である虫害材を受け入れるために新工場を稼働し、地域の森林経営管理や地域材の活用拡大に大きく貢献している。

・普及性と今後の発展方向

高品質無垢材の生産と高付加価値木材製品の販売により、山元の収益向上を図る経営手法は、各地から約50組/年もの林業関係者や工務店等が視察に訪れる全国モデルとなっており、今後も技術革新や持続的な林業経営の実現に大いに期待される。

令和3年度農林水産祭天皇杯受賞者受賞理由概要
水産部門

地元の水産高校生がプロデュースしたかつおチップス

○氏名又は名称 枕崎市漁業協同組合（代表 市田 恵八朗）

○所在地 鹿児島県枕崎市松之尾町

○出品財産物（水産加工品）

○受賞理由

・地域の概要

枕崎市は、薩摩半島南岸中央部に位置し、黒潮が育む栄養豊かな海域に集まるカツオをはじめ青物を中心とした多くの魚が漁獲されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

枕崎市漁業協同組合は、令和2年現在、組合員655名が所属し、日本で唯一、漁獲・製造・販売の全てを行う漁協である。

・受賞者の特色

（1）水産高校の生徒がプロデュースした画期的商品

鹿児島県立水産高等学校食品工学科の学生が課題研究授業として出品者と連携し、発案・包材デザイン・販売方法までプロデュースした商品である。試行錯誤を繰り返した結果、幅広い年代に食べてもらえるよう遠赤外線の利用を考案し、消費者のニーズに応え、いつでも手ごろに利用できる価格の商品開発に成功した。その成果として、本出品材の販売以降、本校の入学希望者は増加傾向となっている。

（2）地域一丸となって実現した取組

枕崎市漁業協同組合は、地域の取りまとめ役として、鹿児島県立水産高等学校や水産加工業者をはじめ、地域の水産バリューチェーン関係者との連携を主導した。その結果、地元で水揚げされる生食用（高鮮度）のB1カツオを使用し、伝統的なかつおぶし加工製法である燻しの工程を取り入れ、水産高校の独創的なアイデアを盛り込んだ商品の開発に成功した。

※B1カツオ：一本釣り漁船により釣り上げ、高濃度食塩水等で急速冷凍して保管したカツオ

・普及性と今後の発展方向

本出品財は、スナックやおつまみ、うどんのトッピングやお茶漬けなど、子供や若い世代など幅広い年代向けにデザインされ、魚食離れの歯止め寄与する商品であり、今後の普及が期待される。また、出品財をプロデュースした鹿児島県立水産高校では、後輩にノウハウを継承するなど、継続的な好循環が生まれている。

本取組は、水産業を通じた地域振興から水産高校の入学希望者増加などに寄与するモデルケースとして、他地域にも多くの示唆を与えるものになりうると評価できる。

令和3年度農林水産祭「天皇杯」選賞概要
多角化経営部門

6次産業化で地域の課題解決と活性化を実現

○氏名又は名称 有限会社シュシュ（代表 山口 成美）

○所在地 長崎県大村市

○出品財 経営（6次産業化）

○受賞理由

・地域の概要

大村市は、長崎県本土のほぼ中央部に位置し、長崎空港や長崎自動車道大村インターチェンジ等が所在するため高速交通の要衝となっている。気候は、海洋性気候のため温暖で、日本なし、ぶどう、みかん、花き、野菜等が生産され、丘陵地から大村湾を臨む風光明媚な地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成12年に、農業交流拠点施設「おおむら夢ファームシュシュ」をオープンし、農産物直売所、農産物加工・販売、レストラン・カフェ、食育・農業体験、農業塾、婚活事業、農家民泊、観光農園等、多角的な事業展開により年間49万人を集客、積極的な商品開発と販路開拓に取り組み、地域の活性化に大きく貢献している。

・受賞者の特色

（1）地域の農業者の所得向上

直売所の売上情報をタイムリーに出荷者にメール配信して品切れを防止し、出荷者の年間の平均売上高は150万円。また、農産物加工センターでは、加工用野菜や果物を相場より高く買い取り、地域の農業者の所得向上に寄与している。

（2）農業後継者の確保・育成など

定年帰農者やI・Uターンの就農希望者に農産物の生産から加工品の開発までの実習を実施。大村市の新規就農者は目標を大きく上回っており、農業後継者の確保・育成に大きく貢献している。併せて、耕作放棄地を学習農場に活用している。

（3）女性の活躍

社員数70名のうち女性社員が58名。出産や育児、家庭と仕事の両立をしやすい職場づくりに努めるとともに、女性社員のアイデアを活かした商品はコンテストで多数の賞を受賞するなど、女性の活躍推進に大きく貢献している。

・普及性と今後の発展方向

シュシュの取組は、地域の農業者の所得向上、農産物廃棄の低減、雇用創出に大きく貢献。また、近隣に観光農園やレストラン、カフェ、ギャラリー等が新規出店するなど、地域への波及効果を生みだし、大村市全体の活性化に大きく貢献している。今後は、消費者のニーズや行動変容に応じた内食向け商品の開発、小学校や福祉施設等への農産物の提供等に取り組み、循環型経済社会の構築を目指す。

令和3年度天皇杯受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

「棚田」も「心」も潤して ～167年守り続けた通潤魂、未来へ～

○集団等の名称 白糸第一自治振興会（代表 山村 伸吾）

○所在地 熊本県上益城郡山都町

○受賞理由

・地域の沿革と概要

山都町は、九州のほぼ中央に位置し、九州のへその町として知られている。白糸台地は、水利の便が悪く、農業生産性の低い土地だったため、江戸時代まで大変苦しい暮らしを強いられていたが、矢部の惣庄屋（現在でいう市町村長）である布田保之助氏が通潤橋・通潤用水の建設に取り組み1854年に完成。現在も約118haの棚田に水が供給されている。これらの施設の維持管理は完成から167年経つ今日まで住民の手で行われている。

・むらづくり組織の概要

平成18年に関係9集落からなる「白糸第一自治振興会」を設立し、米出荷協議会の「通潤橋水ものがたりの会」と一体となって活動を行っている。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

- ① 棚田管理と収益向上を目的とした米の高付加価値化（特別栽培米）に平成25年度から取り組み、厳格な統一出荷基準を設け、講習会による栽培技術の向上と品質の均一化を図っている。
- ② 「通潤橋水ものがたりの会」を設立してブランディングを進め、厳しい栽培基準を設けているが、特別米を扱う関西の卸販売業者や百貨店での評価を得るまでに至っている。また、ふるさと納税の返礼品としても取り扱われるなど棚田米のブランド化と販路開拓の取組は地域生産者の収益増加につながり、地域農業の振興に著しく寄与している。

（2）生活・環境整備面

- ① 文化庁の重要文化的景観に選定された後は、地域住民間の意識の共有化が更に強固となっている。食や地域づくりに関する知見向上のための勉強会や地域ビジョン作成のワークショップを重ね、通潤用水に感謝し美しい白糸台地の景観を守りたいという共通認識が住民の意識と地域力を高めている。特に女性部は講演会や議会傍聴等により勉強を重ねており、環境配慮の取組として廃油を使った石鹸作りが女性部ならではの恒例活動となっている。
- ② 全国棚田サミットを地元開催し、地域住民がパネリストとして参加。現地視察も受け入れ、棚田や用水路の案内、田舎料理や弁当のもてなしなどにより棚田サミット開催を成功に導いた。これを機に都市と農村の交流活動も加速して、毎年地域内外から100名以上が参加する「棚田ウォーキングと収穫感謝祭」を企画運営し、青年部がガイド役となり通潤用水の成り立ちと構造、鳥獣被害と電気柵などの対策などについて説明を行っている。
- ③ 熊本地震と豪雨災害で大きな挫折感を味わうも、CSR（企業の社会的責任）活動との連携にいち早く取り組み、多くの都市住民とボランティア活動を通して交流活動を継続している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、通潤用水と棚田を核としたむらづくりに成功している事例であり、今後の取組の発展が期待できる。

かんがい施設を通して水と環境に配慮した本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。